

# 簿記(情報処理科) シラバス

校長印	教頭印	教頭印

科目名	単位数	学年	学期	必修・選択	対象学科
簿記	3	1	全	必修	情報処理科

## 1 概要および目標

企業における取引の記録・計算・整理に関する知識と技術を習得させ、簿記の本質的な仕組みについて理解させるとともに、ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を育てる。

- 企業における取引を合理的・能率的に記帳する知識と技術を習得させるとともに、簿記の基本的なしくみについて理解させる。
- 会計帳簿や財務諸表を通してビジネスの諸活動を理解する能力を育成する。

## 2 成績評価

### (1) 定期テスト

学期ごとに中間考査・期末考査を実施し、授業内容を中心に、応用を含めて出題する。

### (2) 小テスト・単元テスト

授業の中で随時実施し、計画的に学習されているか、確実に理解されているかを見る。初期段階でのつまずきをなくすようにする。

### (3) 検定試験

全国商業高等学校協会が主催する簿記実務検定試験の3級・2級を受検する。これまでに学習してきた成果を見る。

### (4) 提出物

授業の進度に応じ、自宅学習として課したものや、長期休業中（夏季・冬季）の課題について提出させる。

### (5) 授業態度

参加の意欲、発問などの主体的な姿勢を評価する。

定期テスト・小テスト等 70%	検 定 試 験 10%	提 出 物 10%	授 業 態 度 10%
--------------------	----------------	--------------	----------------

## 3 使用教科書・教材

- ・教科書：実教出版「新簿記」
- ・問題集：実教出版「学習と検定 反復式簿記問題集 全商3級」
- ・問題集：実教出版「2017年度版 全商簿記実務試験検定模擬試験問題集3級」

## 4 授業の展開と形態

ホームルーム単位の一斉授業とする。

## 5 学習方法

授業の始めに簿記学習についての概要を説明し、学科の目標を十分に理解させ、学習に対する意識付けを行う。学習内容の定着のために、なるべく多くの演習の時間を設けるが、十分とは言い難いので、定期的な課題プリント等による家庭学習の慣習化を図る。単元ごとの小テストを行い、学習の定着度を確認しながら授業を進めていく。

検定前には、課外・補習授業等を行い、目標級の取得を目指す。

## 6 簿記(情報処理科) 学習計画

月	単 元	学 習 内 容	配 当	評価・テスト等
4	<b>第1編 簿記の基礎</b> 第1章 簿記の基礎  第2章 資産・負債・資本と貸借対照表 第3章 収益・費用と損益計算書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簿記の意味、役割や記帳の重要性・種類</li> <li>・前提条件</li> <li>・資産、負債、資本の意味と相互関係</li> <li>・収益、費用の意味・貸借対照表</li> <li>・損益計算書の意味と形式の作り方</li> <li>・純損益の計算方法（財産法と損益法）</li> </ul>	8	単元毎の小テスト
5	第4章 取引と勘定  第5章 仕訳と転記 第6章 仕訳帳と総勘定元帳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簿記学習で使用する電卓の基本的な操作を身につけさせる。</li> <li>・簿記上の取引・勘定科目の意味</li> <li>・勘定口座の形式・勘定の記入方法</li> <li>・取引の分解・勘定記入の方法</li> <li>・貸借平均の原理</li> <li>・仕訳の意味・勘定口座への転記の方法</li> <li>・仕訳帳の形式、記入法・総勘定元帳の意味</li> <li>・仕訳帳からの転記の仕方</li> </ul>	11	単元毎の小テスト  中間考査
6	第7章 試算表  第8章 精算表 第9章 決算	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試算表の役割、種類、特徴</li> <li>・試算表の貸借合計が一致しない場合の調査法</li> <li>・精算表の役割と作り方</li> <li>・決算の意味、必要性、重要性</li> <li>・決算手続き全体の流れ・繰越試算表の役割</li> <li>・決算を正しく行う</li> </ul>	10	単元毎の小テスト
7	<b>第2編 取引の記帳</b> (その1) 第10章 現金・預金などの取引  第11章 商品売買の取引  第12章 掛け取引	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現金、当座預金、当座借越勘定に関する記帳</li> <li>・現金出納帳、当座預金出納帳の記帳法</li> <li>・現金過不足の処理法・小口現金のシステム、記帳法</li> <li>・3分法による記帳方法</li> <li>・商品有高帳（先入先出法、移動平均法）の記帳法・売上原価の計算</li> <li>・掛け取引の意味・売掛金と買掛金勘定</li> <li>・売掛金と買掛金元帳・貸し倒れの記帳法</li> </ul>	8	単元毎の小テスト  期末考査
8	夏季休業	復習		
9	第13章 手形の取引  第14章 有価証券の取引 第15章 その他の債権・債務の取引 第16章 固定資産の取引	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約束手形、為替手形のしくみ</li> <li>・手形記入帳の役割と記帳法</li> <li>・有価証券の意味と計算のしかた</li> <li>・各種の債権と債務の記帳法</li> <li>・固定資産の意味と種類と記帳法</li> <li>・固定資産台帳の役割</li> </ul>	12	単元毎の小テスト  実力テスト

月	単 元	学 習 内 容	配 当	評価・ テスト等
10	第17章 個人企業の 資本金の取引  第18章 販売費及び一般 管理費と税金の取引 <b>第3編 決算（その1）</b> 第19章 決算整理(その1)  第20章 8桁精算表 第21章 帳簿決算と 財務諸表の作成 (その1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人企業における資本の元入れ、引き出し</li> <li>税金の種類・引当金の取扱い・引出金勘定を用いた場合の記帳法</li> <li>営業費の意味と理解</li> <li>決算整理の意味とその必要性</li> <li>3分法による商品勘定の整理</li> <li>貸し倒れの見積もり</li> <li>減価償却の処理法の理解、記帳法</li> <li>8桁精算表の意味、記帳法</li> <li>決算整理の含む決算手続き全体の流れ</li> <li>損益計算書、貸借対照表の作成</li> </ul>	12	単元毎の 小テスト  中間考査
11	<b>第4編 会計帳簿と伝票</b> 第22章 会計帳簿  第23章 伝票 <b>第5編 決算（その2）</b> 第24章 決算整理(その2)  第25章 財務諸表の作成 (その2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>帳簿の種類、分類</li> <li>分課制度と帳簿組織の関連</li> <li>証ひょう、伝票の意味と役割</li> <li>伝票の起票や集計方法</li> <li>費用、収益の繰り延べと見越しの意味と記帳法・貸し倒れ（洗替法）</li> <li>減価償却（間接法）・有価証券の評価</li> <li>財務諸表の作成</li> </ul>	12	単元毎の 小テスト
12	<b>第6編 取引の記帳           (その2)</b> 第26章 特殊な商品売買の 取引 第27章 特殊な手形の取引	<ul style="list-style-type: none"> <li>割賦販売、委託販売、試用販売の販売方法</li> <li>未着商品売買の意味、記帳法</li> <li>自己受為替手形・不渡手形の処理手順</li> <li>荷付為替手形</li> <li>手形の保証債務の意味や記帳法</li> </ul>	8	単元毎の 小テスト  期末考査
1	模擬演習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>検定へ向けて模擬問題集を活用し合格を目指す。</li> </ul>	12	全商簿記 検定
2	<b>第7編 仕訳帳の分割</b> 第28章 仕訳帳の分割  第29章 5伝票による記帳	<ul style="list-style-type: none"> <li>記帳の合理化と帳簿組織の立案</li> <li>複合仕訳帳のしくみと利点</li> <li>特殊仕訳帳としての現金出納帳、当座預金出納帳、仕入帳、売上帳の記帳、集計、転記のしかた</li> <li>仕入伝票、売上伝票の起票のしかた</li> <li>5伝票の集計・転記のしかた</li> </ul>	8	小テスト 学年末考査 沖商研 簿記検定
3	<b>第8編 本支店会計</b> 第30章 本支店の取引  第31章 本支店の財務諸表 の合併	<ul style="list-style-type: none"> <li>支店会計の独立の意味を理解させる。</li> <li>支店会計が独立している場合の本支店間の取引・支店相互間の取引の記帳方法を理解させる。</li> <li>本支店合併の損益計算書・貸借対照表の作り方を理解させ、その作成に習熟させる。</li> </ul>	4	小テスト 課題

## 7 観点別評価

関心・意欲・態度	思考・判断
個人企業における簿記に関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、ビジネスの諸活動を計数的に把握する実践的な態度を身につけている。	いろいろな処理法や記帳法について、なぜ、そのように行うのかなど自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。
技能・表現	知識・理解
個人企業における簿記に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に処理するとともに、その成果を適切に表現できる。	個人企業における簿記に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、簿記の基本的な仕組みについて理解している。